

令和 7 年度 1 年次シラバス

(P 1) 目次

★必修科目

(P 2 － 3) 現代の国語

(P 4 － 5) 言語文化

(P 6 － 7) 歴史総合

(P 8 － 9) 数学 I

(P 10－11) 数学 A

(P 12－13) 化学基礎

(P 14－15) 体育（ 1 年男子）

(P 16－17) 体育（ 1 年女子）

(P 18－19) 保健

(P 20－21) 英語コミュニケーション I

(P 22－23) 論理・表現 I

(P 24－25) 家庭基礎

(P 26－27) 情報 I

★選択科目（ 1 A）

(P 28－29) 音楽 I

(P 30－31) 美術 I

(P 32－33) 書道 I

教科名	国語	講座名	現代の国語	履修区分	必履修
科目名	言語文化			単位数	2
教科の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を各科目の目標が示すとおり育成することを目指す。				
科目の目標	(1)実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。【知】 (2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力をのばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。【思】 (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。【態】				

●学校教育目標からの育成すべき資質・能力

① 自己肯定力	自分の長所を認識し、積極的に物事に取り組み、将来の夢や目標に向かって努力する力。	⑥ 自己管理力	授業や行事の中で目標を理解し、最後に学習したことや自分の言動を振り返る力。
② 行動力	自分取るべき行動を理解し、自分の考えに基づき、周囲を巻き込んで行動する力。	⑦ 思考力	HRやグループワーク等の活動により、自ら課題を発見し、その解決に向けて、自分の考えを深め、広げて、論理的に考える力。
③ 創造力	未知の状況でも目的を達成するために、自らが直面した課題を解決する方法を創造する力。	⑧ 言語力	HRやグループワーク等の活動により、自分の考えを他者に伝え、建設的意見を生み出す力。
④ 表現力	HRやグループワーク等の活動により、自分の考えを伝わりやすいように工夫する力。	⑨ 分析力	情報活用能力を駆使し、事実を客観的に分析・検証し、結果を提案する力。
⑤ 郷土愛	総合的な探究の時間に地域を題材とし、課題の設定からまとめ・表現を行い、地域を理解する力。	⑩ 道徳心	授業や行事において、自分たちで考え、話し合う活動により、道徳的に判断する力・心。

●評価方法

評価の観点		観点の趣旨	評価方法
【知】	知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。	・ 考査 ・ 小テスト ・ 授業内外の課題への取り組み
【思】	思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	・ 考査 ・ 小テスト ・ 授業内外の課題への取り組み
【態】	主体的に学習に取り組む態度	言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	・ 学習への取り組み方の観察 ・ リフレクションカードの点検 ・ 授業内外の課題への取り組み

●学習計画

月	時数	単元	学習内容	評価の観点	資質・能力
4	6	目的や場面に応じたスピーチをしよう	・スピーチの構成や展開に着目して「ぐうぜん、うたがう、読書のススメ」（川上未映子）を読む。 ・目的や場面に適したスピーチを行う。	文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。【知】 目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、整理して、伝え合う内容を検討している。【思】【態】	①④
5	6	表記・表現のルールを使って、読み手にわかりやすい文章を書こう	・常用漢字の読み書きについて学ぶ。 ・主張と論拠といった評論文の基本的な構成について学び、「水の東西」（山崎正和）を読む。 ・表記や表現のルールを使って身近な日本文化を紹介する文を書く。	常用漢字の読み書きを適切に行い、主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。【知】 自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考え、表現の仕方を工夫している。【思】【態】	⑦⑧
6	8				
7	6	内容や構成、論理の展開を捉え、文章の要旨を把握しよう	・評論の基本的な構成に沿って「ネットが崩す公私の境」（黒崎政男）を読む。 ・読み取った内容をグループで確認し、情報化社会について考える。	個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。【知】 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開についての確に捉え、要旨や要点を把握している。【思】【態】	⑨
8	4	言葉への関心を高め、相手に伝わるように書こう	・「辞書は生きている」（飯間浩明）を読み、言葉への関心を高める。 ・文章の構成や表現方法に注目して、オリジナルの辞書作りをする。	実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やし、それを文章の中で適切に活用できる。【知】 目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にしようとしている。【思】【態】	②④
9	6				
10	8	自分の意見をわかりやすく伝えよう	・「大切な会話ーワールドカフェへの招待」（アータ・ブラウン、デビッド・アイザックス）を読み、ワールドカフェの基本的な構造を理解する。 ・ワールドカフェを実践し、他人の意見を参考に自分の考えを深める。	言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。【知】 論理の展開を予想しながら聞き、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりしている。【思】【態】	②④
		複数の情報を整理し、まとめよう	・複数の文章を読み比べ、私たちの社会の問題点について考える。 ・情報の妥当性について検討する。	推論の仕方を理解している。 情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解している。【知】 目的に応じて文章や図表などに含まれている情報を関連付けながら、内容や書き手の意図を解釈し、自分の考えを深めている。【思】【態】	⑦⑨
11	6	必要な情報を収集・整理して説得力のあるレポートを書こう	・レポートの基本的な構造な構造について学ぶ。 ・「人がアンドロイドとして甦る未来」（谷島貫太）を参考に、現代の科学技術についてレポートを書く。	レポートにおける引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解している。【知】 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。【思】【態】	⑦⑧
12	6				
1	4	結論の出し方を工夫して合意形成のための話し合いをしよう	・「自然をめぐる合意の設計」（関礼子）を参考に、多面的思考について考える。 ・マイクロディベートを通して、自分の考えを広げ、他者に適切に意見を伝える。	ディベートの目的や効果について理解し、情報の妥当性や信頼性の吟味が適切にできる。【知】 自分の考えが的確に伝わるように自分の立場や考えを明確にし、資料を効果的に用いている。 相手の反応を予想して論理の展開を考えている。【思】【態】	②④
2	6	情報の妥当性や信頼性を吟味して、小論文を書こう	・「生物と無生物のあいだ」（福岡伸一）を参考に、小論文の基本的な構造について学ぶ。 ・小論文を書くことを通して、主張とと論拠を適切に表現する。	小論文の基本的な構造について理解し、主張と論拠など情報と情報との関係に基づいて適切に表現できる。【知】 目的や意図に応じて書かれているかを確かめて文章全体を整えたり、読み手の助言を踏まえて自分の文章の特徴や課題を捉えている。【思】【態】	⑧⑨
3	6	文章に含まれている情報を関連付けて、内容を解釈しよう	・ポスターセッションの作成を通して、複数の文章を比較検討し、効果的な表現について考察する。	文章に含まれている比喩、例示、言い換えなどの修辞や直接的・湾曲的な述べ方について理解している。【知】 複数の文章を比較検討し、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や展開などについて評価したりしている。【読】	④⑨

教科名	国語	講座名	言語文化	履修区分	必修
科目名	言語文化			単位数	3
教科の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を各科目の目標が示すとおり育成することを目指す。				
科目の目標	(1)社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、我が国の言語文化に対する理解を深める。【知】 (2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関りの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。【思】 (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。【態】				

●学校教育目標からの育成すべき資質・能力

① 自己肯定力	自分の長所を認識し、積極的に物事に取り組み、将来の夢や目標に向かって努力する力。	⑥ 自己管理能力	授業や行事の中で目標を理解し、最後に学習したことや自分の言動を振り返る力。
② 行動力	自分取るべき行動を理解し、自分の考えに基づき、周囲を巻き込んで行動する力。	⑦ 思考力	HRやグループワーク等の活動により、自ら課題を発見し、その解決に向けて、自分の考えを深め、広げて、論理的に考える力。
③ 創造力	未知の状況でも目的を達成するために、自らが直面した課題を解決する方法を創造する力。	⑧ 言語力	HRやグループワーク等の活動により、自分の考えを他者に伝え、建設的意見を生み出す力。
④ 表現力	HRやグループワーク等の活動により、自分の考えを伝わりやすいように工夫する力。	⑨ 分析力	情報活用能力を駆使し、事実を客観的に分析・検証し、結果を提案する力。
⑤ 郷土愛	総合的な探究の時間に地域を題材とし、課題の設定からまとめ・表現を行い、地域を理解する力。	⑩ 道徳心	授業や行事において、自分たちで考え、話し合う活動により、道徳的に判断する力・心。

●評価方法

評価の観点		観点の趣旨	評価方法
【知】	知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 我が国の言語文化に対する理解を深めている。	・ 考査 ・ 小テスト ・ 授業内外の課題への取り組み
【思】	思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	・ 考査 ・ 小テスト ・ 授業内外の課題への取り組み
【態】	主体的に学習に取り組む態度	言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	・ 学習への取り組み方の観察 ・ リフレクションカードの点検

●学習計画

月	時数	単元	学習内容	評価の観点	資質・能力
4	9	古典の世界を楽しもう	・言葉のきまりやと古文特有の表現を学ぶ。 ・言葉のきまりや古文特有の表現に着目して『宇治拾遺物語』『児のそら寝』を読む。	言葉には文化の継承、発展を支える働きがあることや、文語や訓読のきまり、古典特有の表現を理解している。【知】 内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。【読】	⑥⑦
5	9	現在の日本語と漢文とのつながりを捉えよう	・「漢文入門」では漢文の基礎を学び、言語文化の特質を捉える。 ・現在の日本語との関わりを意識して置いて故事成語「漁夫の利」を読む。	言語文化の特質や外国の文化との関係について理解している。【知】 作品や文章のものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。【読】	⑥⑦
6	12	構成や展開に着目して小説を読もう	・漢字の書き取りや意味調べを行い言葉の適切な用い方を学ぶ。 ・構成や展開に着目して「船を編む」（三浦しをん）を読み、内容を的確に捉える。	常用漢字を適切に読み書きし、文や文章の中で使っている。また、語句の意味を理解している。【知】 内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。【読】	④⑦
7	9	随筆文学の魅力に迫ろう	・文体の特徴や変遷を学習する。 ・文章の構成や表現方法に注目して『徒然草』『つれづれなる…』、「神無月のころ」を読む。	言文一致体や和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深めている。【知】 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。【読】	⑥⑦
8	6				
9	9	漢文を読み、心情を解釈しよう	・漢文特有の表現を学習する。 ・『十八史略』『管鮑之交』を読み、そこに表れるものの見方、感じ方、考え方をもとに解釈する。	語句の意味を理解し、語感を磨き語彙を豊かにしている【知】 自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料を吟味して、表現したいことを明確にしている。【書】	⑥⑦
10	12	作品と原題の読み比べを通して、自分の考えを深めよう	・漢字や意味、文学史の学習。 ・「羅生門」（芥川龍之介）と『今昔物語集』『羅城門の上層に…』を読み比べ、題材に対する理解を深める。	常用漢字を正確に読み書きし、文や文章の中で使っている。また、作品の歴史的・文化的背景を理解している。【知】 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方を深めている。【読】	⑥⑦⑨
11	9				
12	9	和歌特有の表現の広がりを読み味わおう	・古文特有の表現や和歌の修辞を理解し、現代との関連を学ぶ。 ・『伊勢物語』『芥川』を歌物語おける和歌の働きに注目しながら読み、内容を解釈する。	時間の経過による文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。【知】 作品や文章の成立した背景を踏まえ、内容の解釈を深めている。【読】	①③④⑥
1	6	漢詩を鑑賞し作品の味わいを捉えよう	・近体詩の特徴や決まりを学ぶ。 ・「登鸛鵲樓」、「静夜思」など、唐代の詩について作者や歴史的を踏まえて読み取り、解釈する。	文語や訓読のきまり、古典特有の表現を理解している。【知】 作品の成立した背景や他の作品を踏まえ、内容の解釈を深めている。【読】	⑥⑦⑨
2	9	歴史的な背景とともに戦争を題材とした文章を読もう	・漢字の書き取りや意味調べを行い言葉の適切な用い方を学ぶ。 ・「沖縄の手記から」（田宮虎彦）を時代背景や事件の情報を踏まえて読み、解釈を深める。	常用漢字を適切読み書きし、文や文章の中で使っている。また、読書の意義と効用について理解を深めている。【知】 作品や文章の成立した背景を踏まえ、内容の解釈を深めている。【読】	⑥⑦⑨
3	6	和歌の修辞や短歌の表現方法を吟味し、歌を詠もう	・和歌の修辞や表現の特色に着目して、『万葉集』、『古今和歌集』、『短歌』を読み味わう。 ・自分の体験や思いが伝わるよう工夫を凝らして歌を詠む。	本歌取りや見立てなどの特徴的な表現の技法と効果について理解している。【知】 自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現を工夫している。【書】	①③④⑥

教科名	地歴・公民科	講座名	歴史総合	履修区分	必修
科目名	歴史総合			単位数	2
教科の目標	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。				
科目の目標	(1) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。				

●学校教育目標からの育成すべき資質・能力

① 自己肯定力	自分の長所を認識し、積極的に物事に取り組み、将来の夢や目標に向かって努力する力。	⑥ 自己管理力	授業や行事の中で目標を理解し、最後に学習したことや自分の言動を振り返る力。
② 行動力	自分取るべき行動を理解し、自分の考えに基づき、周囲を巻き込んで行動する力。	⑦ 思考力	HRやグループワーク等の活動により、自ら課題を発見し、その解決に向けて、自分の考えを深め、広げて、論理的に考える力。
③ 創造力	未知の状況でも目的を達成するために、自らが直面した課題を解決する方法を創造する力。	⑧ 言語力	HRやグループワーク等の活動により、自分の考えを他者に伝え、建設的意見を生み出す力。
④ 表現力	HRやグループワーク等の活動により、自分の考えを伝わりやすいように工夫する力。	⑨ 分析力	情報活用能力を駆使し、事実を客観的に分析・検証し、結果を提案する力。
⑤ 郷土愛	総合的な探究の時間に地域を題材とし、課題の設定からまとめ・表現を行い、地域を理解する力。	⑩ 道徳心	授業や行事において、自分たちで考え、話し合う活動により、道徳的に判断する力・心。

●評価方法

評価の観点		観点の趣旨	評価方法
【知】	知識・技能	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	・小テスト ・単元テスト ・ワークシート ・定期考査
【思】	思考・判断・表現	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。	・小テスト ・単元テスト ・ワークシート ・定期考査
【態】	主体的に学習に取り組む態度	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度や、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我がかが国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを身に付けている。	・ワークシート ・授業における活動

●学習計画

月	時数	単元	学習内容	評価の観点	資質・能力
4	6	歴史の扉 (1)歴史と私たち (2)歴史の特質と資料	・ 私たちに関わる諸事象が、日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解する。	・ 身近な事象が日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解する。【知】 ・ 複数の資料から読み取った情報特色などを考察し、表現する。【思】 ・ 諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。【態】	②③
5	6	近代化と私たち (1)近代化への問い	・ 中学校までの学習及びこれまでの学習を踏まえ、交通と貿易、産業と人口、権利意識と政治参加や国民の義務、学校教育、労働と家族、移民などに関する資料を活用して情報を読み取ったりまとめたりする技能を習得し、人々の生活や社会の在り方が近代化に伴い変化したことについて考察するための問いを表現する。	・ 資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。【知】 ・ 国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。【思】 ・ 諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。【態】	④⑦
6	8	(2)結び付く世界と日本の開国			⑨⑩
7	6	(3)国民国家と明治維新			④⑨
8	4	(4)近代化と現代的な諸課題			⑥⑦
9	6	国際秩序の変化や大衆化と私たち (1)国際秩序の変化や大衆化への問い	・ 中学校までの学習並びにこれまでの学習を踏まえ、国際関係の緊密化、アメリカ合衆国とソヴィエト連邦の台頭、植民地の独立、大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化、生活様式の変化などに関する資料を活用して情報を読み取ったりまとめたりする技能を習得し、私たちの生活や社会の在り方が、国際秩序の変化や大衆化に伴い変化したことについて考察するための問いを表現する。	・ 現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解する。【知】 ・ 事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について多面的・多角的に考察し表現する。【思】 ・ 諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。【態】	②③④⑦
10	8	(2)第一次世界大戦と大衆社会			②③④⑦
11	6	(3)経済危機と第二次世界大戦			④⑦⑨
12	6	(4)国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題			④⑦⑨
1	4	グローバル化と私たち (1)グローバル化への問い	・ 中学校までの学習並びにこれまでの学習を踏まえ、冷戦と国際関係、人と資本の移動、高度情報通信、食料と人口、資源・エネルギーと地球環境、感染症、多様な人々の共存などに関する資料を取り上げて、情報を読み取ったりまとめたりする技能を習得し、現代のグローバル化について考察するための問いを表現する。	・ 資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。【知】 ・ グローバル化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。【思】 ・ 諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。【態】	②③
2	6	(2)冷戦と世界経済 (3)世界秩序の変容と日本			②③
3	4	(4)現代的な諸課題の形成と展望			⑤⑥

教科名	数学	講座名	数学 I	履修区分	必修
科目名	数学 I			単位数	3
教科の目標	各単元についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につける。また、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり改善しようとする態度や創造性を養う。				
科目の目標	・ 数学的活動を通して、数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての、基本的な原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につける。 ・ 数学を活用して事象を論理的に考察する力や数学的な表現を用いて事象を表現する力を養う。				

●学校教育目標からの育成すべき資質・能力

① 自己肯定力	自分の長所を認識し、積極的に物事に取り組み、将来の夢や目標に向かって努力する力。	⑥ 自己管理力	授業や行事の中で目標を理解し、最後に学習したことや自分の言動を振り返る力。
② 行動力	自分が取べき行動を理解し、自分の考えに基づき、周囲を巻き込んで行動する力。	⑦ 思考力	HRやグループワーク等の活動により、自ら課題を発見し、その解決に向けて、自分の考えを深め、広げて、論理的に考える力。
③ 創造力	未知の状況でも目的を達成するために、自らが直面した課題を解決する方法を創造する力。	⑧ 言語力	HRやグループワーク等の活動により、自分の考えを他者に伝え、建設的意見を生み出す力。
④ 表現力	HRやグループワーク等の活動により、自分の考えを伝わりやすいように工夫する力。	⑨ 分析力	情報活用能力を駆使し、事実を客観的に分析・検証し、結果を提案する力。
⑤ 郷土愛	総合的な探究の時間に地域を題材とし、課題の設定からまとめ・表現を行い、地域を理解する力。	⑩ 道徳心	授業や行事において、自分たちで考え、話し合う活動により、道徳的に判断する力・心。

●評価方法

評価の観点		観点の趣旨	評価方法
【知】	知識・技能	・ 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・ 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけている。	・ 小テスト ・ 単元テスト ・ 定期考査
【思】	思考・判断・表現	・ 数学を活用して事象を論理的に考察する力を身につけている。 ・ 事象の本質や他の事象との関係を認識し考察する力を身につけている。 ・ 数学的な表現を用いて事象を的確に表現する力を身につけている。	・ 小テスト ・ 単元テスト ・ 課題探究活動におけるレポート ・ 定期考査
【態】	主体的に学習に取り組む態度	・ 学習事項のつながりを考えながら問題解決に取り組もうとする。 ・ 問題の解決の過程を振り返り、より発展的に考えたり、多面的に考えたりしようとする。	・ ワークシートへの記述 ・ 課題探究活動におけるレポート

●学習計画

月	時数	単元	学習内容	評価の観点	資質・能力
4	9	数と式	式の計算 実数 方程式・不等式の解 集合と命題	【知識・技能】 ・集合と命題に関する基本的な概念を理解している。 ・簡単な無理数の計算ができる。 ・2次の乗法公式や因数分解の公式を適切に用いて計算できる。 ・不等式の解を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ・問題を解決する際に、すでに学習した計算の方法と関連づけながら考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、論理的に問題を解決するために粘り強く考えたりしようとしている。	①②③④
5	9				
6	12				
7	9	2次関数	2次関数とグラフ 2次関数の値の変化 2次方程式と2次不等式	【知識・技能】 ・二次関数の値の変化やグラフの特徴について理解している。 ・二次関数の最大値や最小値を求めることができる。 ・二次方程式や二次不等式の解と二次関数のグラフの関係を理解し、グラフを用いて解を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ・二次関数の式とグラフの関係を係数の変化と関連づけて考えることができる。 ・2つの数量の関係に着目し、数学的に捉えて問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、論理的に問題を解決するために粘り強く考えたりしようとしている。	③④⑦
8	6				
9	9				
10	12				
11	9	図形と計量	三角比 三角形への応用	【知識・技能】 ・三角比の意味や相互関係について理解している。 ・三角比の値を求めることができる。 ・正弦定理や余弦定理について、三平方の定理等と関連づけて理解している。 ・正弦定理や余弦定理などを用いて三角形の要素を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ・図形の構成要素の間の関係に着目し、日常や社会の事象を数学的にとらえ、問題を考察・解決することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、論理的に問題を解決するために粘り強く考えたりしようとしている。	③④⑦
12	9				
1	6				
2	9	データの分析	データの整理 データの代表値 データの散らばりと四分位数 分散と標準偏差 データの相関 仮説検定の考え方	【知識・技能】 ・分散、標準偏差、散布図及び相関係数の意味や使い方を理解している。 ・基本的な統計量を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ・データの散らばり具合や傾向を考察することができる。 ・適切な統計量や手法を用いて、データの傾向を把握し、事象の特徴を判断することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、論理的に問題を解決するために粘り強く考えたりしようとしている。	③④⑦⑨
3	6				

教科名	数学	講座名	数学A	履修区分	必修
科目名	数学A			単位数	2
教科の目標	各単元についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につける。また、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり改善しようとする態度や創造性を養う。				
科目の目標	・ 数学的活動を通して、図形の性質、場合の数と確率についての基本的な原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深める。また、図形の構成要素間の関係から論理的に考察する力や、確率に基づいて事象の起こりやすさを判断する力を身につける。 ・ 数学を活用して事象を論理的に考察する力や数学的な表現を用いて事象を表現する力を養う。				

●学校教育目標からの育成すべき資質・能力

① 自己肯定力	自分の長所を認識し、積極的に物事に取り組み、将来の夢や目標に向かって努力する力。	⑥ 自己管理能力	授業や行事の中で目標を理解し、最後に学習したことや自分の言動を振り返る力。
② 行動力	自分が取るべき行動を理解し、自分の考えに基づき、周囲を巻き込んで行動する力。	⑦ 思考力	HRやグループワーク等の活動により、自ら課題を発見し、その解決に向けて、自分の考えを深め、広げて、論理的に考える力。
③ 創造力	未知の状況でも目的を達成するために、自らが直面した課題を解決する方法を創造する力。	⑧ 言語力	HRやグループワーク等の活動により、自分の考えを他者に伝え、建設的意見を生み出す力。
④ 表現力	HRやグループワーク等の活動により、自分の考えを伝わりやすいように工夫する力。	⑨ 分析力	情報活用能力を駆使し、事実を客観的に分析・検証し、結果を提案する力。
⑤ 郷土愛	総合的な探究の時間に地域を題材とし、課題の設定からまとめ・表現を行い、地域を理解する力。	⑩ 道徳心	授業や行事において、自分たちで考え、話し合う活動により、道徳的に判断する力・心。

●評価方法

評価の観点		観点の趣旨	評価方法
【知】	知識・技能	・学習内容についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけている。	・小テスト ・単元テスト ・定期考査
【思】	思考・判断・表現	・図形の構成要素間との関係に着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力を身につける。 ・確率の性質に基づいて事象の起こりやすさを判断する力を身につける。	・小テスト ・単元テスト ・課題探究活動におけるレポート ・定期考査
【態】	主体的に学習に取り組む態度	・数学のよさを認識し、数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題の解決の過程を振り返り、より発展的に考えたり、多面的に考えたりしようとする。	・ワークシートへの記述 ・課題探究活動におけるレポート

●学習計画

月	時数	単元	学習内容	評価の観点	資質・能力
4	6	場合の数と確率	場合の数 確率	【知識・技能】 ・集合の要素の個数に関する関係や、数え上げの原則について理解している。 ・順列及び組合せの意味を理解し、その総数を求めることができる。 ・確率への理解を深め、事象の確率や期待値を求めることができる。 ・独立な試行の確率や簡単な場合の条件付き確率を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ・場合の数や確率を求める方法を多面的に考察することができる。 ・確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断したり、期待値を意思決定に活用したりすることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、論理的に問題を解決するために粘り強く考えたりしようとしている。	④⑦⑧⑨
5	6				
6	8				
7	6				
8	4	図形の性質	平面図形 空間図形	【知識・技能】 ・三角形や円、空間図形に関する基本的な性質について理解している。 【思考・判断・表現】 ・図形の構成要素間の関係やすでに学習した図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見だし、その性質について論理的に考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、論理的に問題を解決するために粘り強く考えたりしようとしている。	④⑦⑨
9	6				
10	8				
11	6				
12	6	数学と人間の活動	約数と倍数 ユークリッドの互除法 1次不定方程式 記数法 数や図形と人間の活動	【知識・技能】 ・数量や図形に関する概念などと人間の活動の関わりについて理解している。 ・互除法の考え方を理解している。 ・整数の性質や記数法について理解している。 【思考・判断・表現】 ・数量や図形に関する概念などを、関心に基づいて発展させ考察することができる。 ・最大公約数と最小公倍数の性質を用いていろいろな事象を考察できる。 ・1次不定方程式の解を適切な方法を判断して求めることができる。 ・2進法などの記数法を理解し、n進法と10進法の関係を考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・人間の活動における数学の良さを認識し、様々な場面で数学を活用しようとしたり、論理的に問題を解決するために粘り強く考えたりしようとしている。	③④⑦⑩
1	4				
2	6				
3	4				

教科名	理科	講座名	化学基礎	履修区分	必修
科目名	化学基礎			単位数	2
教科の目標	自然の事物・現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な基礎的な知識や能力、態度を育成する。				
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら，物質とその変化への関心を高め，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，化学の基本的な原理・法則への理解を深めるとともに，科学的に探究するために必要な資質・能力や態度を育てる。				

●学校教育目標からの育成すべき資質・能力

① 自己肯定力	自分の長所を認識し、積極的に物事に取り組み、将来の夢や目標に向かって努力する力。	⑥ 自己管理力	授業や行事の中で目標を理解し、最後に学習したことや自分の言動を振り返る力。
② 行動力	自分が取るべき行動を理解し、自分の考えに基づき、周囲を巻き込んで行動する力。	⑦ 思考力	HRやグループワーク等の活動により、自ら課題を発見し、その解決に向けて、自分の考えを深め、広げて、論理的に考える力。
③ 創造力	未知の状況でも目的を達成するために、自らが直面した課題を解決する方法を創造する力。	⑧ 言語力	HRやグループワーク等の活動により、自分の考えを他者に伝え、建設的意見を生み出す力。
④ 表現力	HRやグループワーク等の活動により、自分の考えを伝わりやすいように工夫する力。	⑨ 分析力	情報活用能力を駆使し、事実を客観的に分析・検証し、結果を提案する力。
⑤ 郷土愛	総合的な探究の時間に地域を題材とし、課題の設定からまとめ・表現を行い、地域を理解する力。	⑩ 道徳心	授業や行事において、自分たちで考え、話し合う活動により、道徳的に判断する力・心。

●評価方法

評価の観点		観点の趣旨	評価方法
【知】	知識・技能	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などの基本操作や記録などの技能を身につけている。	単元テストの結果 実験操作の進行 パフォーマンステストの結果
【思】	思考・判断・表現	物質とその変化から問題を見だし、見通しを持って観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	実験レポートの記述内容 グループ学習の活動・発表内容
【態】	主体的に学習に取り組む態度	物質とその変化に主体的に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	単元テスト等に対する取り組む姿勢 フィードバックへの記述とその姿勢 グループ学習に取り組む態度

●学習計画

月	時数	単元	学習内容	評価の観点	資質・能力
4	6	化学と物質	化学の特徴 物質の分離・精製 単体と化合物	・物質の分類について理解し、日常生活に応用して深めようとしている。【知】 ・物質の状態や性質に応じて適切な分離方法を考えることができる。【技】	①②⑥
5	6	化学と物質 物質の構成粒子	単体と化合物 熱運動と物質の三態 原子の構造	・粒子の熱運動から物質の状態が決定されることを理解し、説明しようとする。【知】 ・原子の構造とその違いによる分類を理解し、より小さな視点で物質を見ようとしている。【態】	②③
6	8	物質の構成粒子 物質と化学結合	電子配置 周期表 イオン結合	・電子配置を理解し、周期表に当てはめて規則性や原子の安定性を説明しようとしている。【思】 ・イオンの生成を理解し、電気的な引力を考えた物質の見方ができる。【見】	①②③
7	6	物質と化学結合	共有結合 分子結晶 電気陰性度と極性	・非金属元素同士の結合について、構造から物質の性質を知ろうとしている。【態】 ・分子と極性の関係性を理解し、性質や形について説明できる。【知】	②③
8	4	物質と化学結合	金属結合 化学結合のまとめ	・金属元素同士の結合について、結合の仕組みから物質の特徴を説明できる。【思】 ・化学結合の違いから物質の特性の違いを比較して説明しようとしている。【態】	②③⑥
9	6	物質量と化学反応式	原子量・分子量・式量 物質量	・相対質量を理解し、原子量や分子量、式量へ応用することができる。【知】 ・単位への理解を深め、物質量を扱えるようになる。【知】	①②⑥
10	8	物質量と化学反応式	物質量 化学反応式	・物質量の計算を通して、量的な関係性を捉えることができる。【思】 ・化学反応を法則に則り、化学反応式として表すことができる。【知】	①②③⑥⑦
11	6	物質量と化学反応式 化学反応	化学反応式 溶液の濃度 酸と塩基	・溶液の濃度を場面に応じて使い分けたり、応用したりできる。【思】 ・酸と塩基についての基礎を理解し、酸及び塩基の特徴を捉えようとしている。【態】	①②③⑥⑦
12	6	化学反応	水素イオン濃度とpH 中和反応	・pHについて知識を深め、各イオンの濃度の関係性を理解している。【知】 ・酸と塩基の反応の仕組みを理解し、化学反応式に表し量的関係を考えられる。【思】	①②③⑥⑦
1	4	化学反応	中和滴定 酸化還元反応	・中和滴定における操作の意味や結果の処理方法を学び実践・応用できる。【技】 ・酸化と還元の定義から、反応の仕組みを理解し説明できる。【知】	②④⑨
2	6	化学反応	酸化剤と還元剤 金属の酸化還元反応	・酸化剤と還元剤のはたらきを理解することで、酸化還元反応をよりの確に説明できる。【思】 ・金属のイオン化傾向について理解し、金属元素の反応性の違いを説明できる。【知】	①⑥⑧
3	4	化学反応	酸化還元反応の応用	・金属のイオン化傾向の利用方法について理解している。【知】 ・電池の仕組みを理解し、状況に応じた工夫を考えることができる。【思】	②③⑦⑨

教科名	保健体育	講座名	体育（１年男子）	履修区分	必修
科目名	体育			単位数	2
教科の目標	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。				
科目の目標	・運動の実践を通して、運動の多様性や体力の必要性を理解するとともに技能を身につける。 ・課題の発見と解決に向けて、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 ・競走や協働の経験を通して、公正・協力・責任・自他の尊重・安全の確保といった態度を養う。				

●学校教育目標からの育成すべき資質・能力

① 自己肯定力	自分の長所を認識し、積極的に物事に取り組み、将来の夢や目標に向かって努力する力。	⑥ 自己管理力	授業や行事の中で目標を理解し、最後に学習したことや自分の言動を振り返る力。
② 行動力	自分が取るべき行動を理解し、自分の考えに基づき、周囲を巻き込んで行動する力。	⑦ 思考力	HRやグループワーク等の活動により、自ら課題を発見し、その解決に向けて、自分の考えを深め、広げて、論理的に考える力。
③ 創造力	未知の状況でも目的を達成するために、自らが直面した課題を解決する方法を創造する力。	⑧ 言語力	HRやグループワーク等の活動により、自分の考えを他者に伝え、建設的意見を生み出す力。
④ 表現力	HRやグループワーク等の活動により、自分の考えを伝わりやすいように工夫する力。	⑨ 分析力	情報活用能力を駆使し、事実を客観的に分析・検証し、結果を提案する力。
⑤ 郷土愛	総合的な探究の時間に地域を題材とし、課題の設定からまとめ・表現を行い、地域を理解する力。	⑩ 道徳心	授業や行事において、自分たちで考え、話し合う活動により、道徳的に判断する力・心。

●評価方法

評価の観点		観点の趣旨	評価方法
【知】	知識・技能	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続するため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につける。	技能テスト 授業中の活動 提出物や筆記テスト
【思】	思考・判断・表現	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	授業中の活動 提出物
【態】	主体的に学習に取り組む態度	競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。	授業中の活動 授業に向けた準備(服装、時間等)

●学習計画

月	時数	単元	学習内容	評価の観点	資質・能力
4	7	体づくり運動	体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、健康の保持増進や体力の向上を図る。	・積極的に学習に取り組んでいる。 ・自他の、体力の違いに配慮しようとしている。 ・自己の責任を果たそうとしている。	①④
5	6	陸上競技	走跳投種目の基礎やスタート方法、計測方法を習得し、自己の能力に応じた目標に向けて記録を向上させるよう努力する。	・全力を尽くして競争したり記録を向上させたりする陸上競技の楽しさや喜びを味わおうとしている。 ・記録の向上に向けて仲間と話し合うなどして練習を工夫している。 ・スタートや記録の計測方法、ファウルの判定について理解している。	②⑥
6	6				
7	4				
8	6	サッカー	基本的技能の習得および種目の特性やルールを理解して自分たちで試合を行えるようにする。	・チームにおける自分の役割を果たし、協力して教え合ったり、励まし合ったりしている。 ・体力や技能レベルを踏まえて、対戦相手に応じた作戦を考えて練習やゲームに取り組んでいる。 ・競技特性やルールを理解し、基本的な個人技能を身につけようとしている。	③⑦⑧
9	8				
10	3				
11	7	柔道	礼法などの伝統的な行動の仕方や相手を尊重する精神、基本動作を学習し、安全な身の処し方を身につける。	・相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとしている。 ・健康・安全を確保するために適切な練習方法を選んでいる。 ・理にかなった体さばきと崩しを理解して技を習得しようとしている。	①②⑩
12	5				
1	6	バスケットボール	基本的技能の習得および種目の特性やルールを理解して自分たちで試合を行えるようにする。	・チームにおける自分の役割を果たし、協力して教え合ったり、励まし合ったりしている。 ・体力や技能レベルを踏まえて、対戦相手に応じた作戦を考えて練習やゲームに取り組んでいる。 ・競技特性やルールを理解し、基本的な個人技能を身につけようとしている。	③④⑧
2	6				
3	6	体育理論	運動技能の構造や運動の学び方について学習し、生涯にわたって運動に親しむ資質・態度を身につける。	・運動やスポーツの効果的な学習方法や豊かなスポーツライフの設計の仕方について積極的に学習しようとしている。	⑤⑨

教科名	保健体育	講座名	体育（１年女子）	履修区分	必修
科目名	体育			単位数	2
教科の目標	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。				
科目の目標	・運動の実践を通して、運動の多様性や体力の必要性を理解するとともに技能を身につける。 ・課題の発見と解決に向けて、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 ・競走や協働の経験を通して、公正・協力・責任・自他の尊重・安全の確保といった態度を養う。				

●学校教育目標からの育成すべき資質・能力

① 自己肯定力	自分の長所を認識し、積極的に物事に取り組み、将来の夢や目標に向かって努力する力。	⑥ 自己管理力	授業や行事の中で目標を理解し、最後に学習したことや自分の言動を振り返る力。
② 行動力	自分が取るべき行動を理解し、自分の考えに基づき、周囲を巻き込んで行動する力。	⑦ 思考力	HRやグループワーク等の活動により、自ら課題を発見し、その解決に向けて、自分の考えを深め、広げて、論理的に考える力。
③ 創造力	未知の状況でも目的を達成するために、自らが直面した課題を解決する方法を創造する力。	⑧ 言語力	HRやグループワーク等の活動により、自分の考えを他者に伝え、建設的意見を生み出す力。
④ 表現力	HRやグループワーク等の活動により、自分の考えを伝わりやすいように工夫する力。	⑨ 分析力	情報活用能力を駆使し、事実を客観的に分析・検証し、結果を提案する力。
⑤ 郷土愛	総合的な探究の時間に地域を題材とし、課題の設定からまとめ・表現を行い、地域を理解する力。	⑩ 道徳心	授業や行事において、自分たちで考え、話し合う活動により、道徳的に判断する力・心。

●評価方法

評価の観点		観点の趣旨	評価方法
【知】	知識・技能	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続するため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につける。	技能テスト 授業中の活動 提出物や筆記テスト
【思】	思考・判断・表現	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	授業中の活動 提出物
【態】	主体的に学習に取り組む態度	競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にするなど意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。	授業中の活動 授業に向けた準備(服装、時間等)

●学習計画

月	時数	単元	学習内容	評価の観点	資質・能力
4	7	体づくり運動	体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、健康の保持増進や体力の向上を図る。	・積極的に学習に取り組んでいる。 ・自他の、体力の違いに配慮しようとしている。 ・自己の責任を果たそうとしている。	①④
5	6	陸上競技	走跳投種目の基礎やスタート方法、計測方法を習得し、自己の能力に応じた目標に向けて記録を向上させるよう努力する。	・全力を尽くして競争したり記録を向上させたりする陸上競技の楽しさや喜びを味わおうとしている。 ・記録の向上に向けて仲間と話し合うなどして練習を工夫している。 ・スタートや記録の計測方法、ファウルの判定について理解している。	②⑥
6	6				
7	6	ソフトボール	基本的技能の習得に加えて、種目の特性とルールを理解して自分たちで試合を行えるようにする。	・チームにおける自分の役割を果たし、協力して教え合ったり、励まし合ったりしている。 ・体力や技能レベルを踏まえて、対戦相手に応じた作戦を考えて練習やゲームに取り組んでいる。	③⑦⑧
8	6				
9	5	創作ダンス	それぞれ特有の表現や踊りを身に付けて交流や発表をできるようにする。	・ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方を理解している。 ・グループでの自分の役割を果たし、協力して教え合ったり、励まし合ったりしている。 ・他者の発表を賞賛し、互いに共感し高め合おうとしている。	②③④
10	5				
11	5	器械運動	基本的な技を習得して、なめらかに安定して演技することができるようにする。 (マット運動・跳び箱)	・仲間と協力して教え合ったり、練習の補助をしている。 ・安全を確保するための適切な練習方法を選んでいる。 ・互いの演技を見て、良いところを認め合っている。	①②⑩
12	5				
1	6	バレーボール	基本的技能の習得に加えて、種目の特性とルールを理解して自分たちで試合を行えるようにする。	・チームでの自分の役割を果たし、協力して教え合ったり励まし合ったりしている。 ・体力や技能レベルを踏まえた練習方法や対戦相手に応じた作戦を考える工夫をしている。	③④⑧
2	7				
3	6	体育理論	運動技能の構造や運動の学び方について学習し、生涯にわたって運動に親しむ資質・態度を身につける。	・運動やスポーツの効果的な学習方法や豊かなスポーツライフの設計の仕方について積極的に学習しようとしている。	⑤⑨

教科名	保健体育	講座名	保健（１年）	履修区分	必修
科目名	保健			単位数	1
教科の目標	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。				
科目の目標	・ 個人および社会生活における健康・安全について理解を深め、技能を身につける。 ・ 健康についての課題発見および合理的・計画的な解決方法を思考し他者に伝える力を養う。 ・ 自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、活力ある生活を営む態度を養う。				

●学校教育目標からの育成すべき資質・能力

① 自己肯定力	自分の長所を認識し、積極的に物事に取り組み、将来の夢や目標に向かって努力する力。	⑥ 自己管理力	授業や行事の中で目標を理解し、最後に学習したことや自分の言動を振り返る力。
② 行動力	自分が取るべき行動を理解し、自分の考えに基づき、周囲を巻き込んで行動する力。	⑦ 思考力	HRやグループワーク等の活動により、自ら課題を発見し、その解決に向けて、自分の考えを深め、広げて、論理的に考える力。
③ 創造力	未知の状況でも目的を達成するために、自らが直面した課題を解決する方法を創造する力。	⑧ 言語力	HRやグループワーク等の活動により、自分の考えを他者に伝え、建設的意見を生み出す力。
④ 表現力	HRやグループワーク等の活動により、自分の考えを伝わりやすいように工夫する力。	⑨ 分析力	情報活用能力を駆使し、事実を客観的に分析・検証し、結果を提案する力。
⑤ 郷土愛	総合的な探究の時間に地域を題材とし、課題の設定からまとめ・表現を行い、地域を理解する力。	⑩ 道徳心	授業や行事において、自分たちで考え、話し合う活動により、道徳的に判断する力・心。

●評価方法

評価の観点		観点の趣旨	評価方法
【知】	知識・技能	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身につけるようにする。	定期考査 小テスト 授業における活動
【思】	思考・判断・表現	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	定期考査 小テスト レポート・提出物 授業における活動
【態】	主体的に学習に取り組む態度	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。	レポート・提出物 授業における活動

●学習計画

月	時数	単元	学習内容	評価の観点	資質・能力
4	3	オリエンテーション 健康の考え方	健康の考え方と成り立ち 私たちの健康のすがた	・国民の健康課題・健康指標とその要因を理解する ・国民の健康課題を個人や社会生活と結びつけ、自他や社会の課題を発見する	①⑤
5	3	生活習慣病などの 予防と回復	生活習慣病の予防と回復 がんの原因と予防 がんの治療と回復	・様々な生活習慣病について一次予防・二次予防および治療や回復に必要な知識や行動を理解する ・修得した知識を基に、自他の生活習慣や社会環境を分析し、必要な取り組みを整理する	②⑥⑦
6	4		運動と健康 食事と健康 休養・睡眠と健康		
7	3	喫煙・飲酒・薬 物乱用と健康	喫煙と健康 飲酒と健康 薬物乱用と健康	・喫煙、飲酒が生活習慣病の原因となること、薬物乱用が心身や社会の安全に深刻な影響を及ぼすことを理解する ・喫煙、飲酒、薬物乱用の防止に関する個人および社会環境への働きかけについて分析し、防止策を評価する	②⑥⑩
8	2				
9	3	精神疾患の予防 と回復	精神疾患の特徴 精神疾患の予防	・精神疾患の種類や現状とストレスへの対処方法について理解する ・修得した知識を基に、心身の健康の保ち方や不調への対応策などを整理する	②③④ ⑧
10	4	現代の感染症と その予防	現代の感染症 感染症の予防 性感染症・エイズとその予防	・感染症のメカニズムと予防方法、現代における課題について理解する ・感染症の背景を事例に基づいて整理しリスク軽減に必要な取り組みに活かす	②⑥⑦
11	3	健康に関する意 志決定・行動選 択	意志決定・行動選択 健康に関する環境づくり	・ヘルスプロモーションの考え方と意志決定・行動選択の重要性を理解する ・健康に関わる自他や社会の課題、その解決方法を筋道立てて説明できる	①④⑨ ⑩
12	3	安全な社会生活	自己の現状と発生要因 安全な社会の形成 交通における安全	・交通事故の要因と、安全の実現に向けた個人及び社会環境に対する取り組みについて理解する ・修得した知識を基に、自他や社会の取り組みを評価し、危険予測・回避および安全な社会生活づくりのための取り組みについて考えを説明できる	②⑦⑨
1	2				
2	3	応急手当	応急手当の意義とその基本 日常的な応急手当 心肺蘇生法	・応急手当の意義と方法を理解し、実習を通して心肺蘇生法など各種の応急手当ができるようになる ・修得した知識や技能を障害や疾病と関連づけて適切に応用する	①②⑦ ⑧⑨⑩
3	2				

教科名	外国語	講座名	英語コミュニケーションⅠ	履修区分	必修
科目名	英語			単位数	3
教科の目標	外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどの確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。				
科目の目標	日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、 1. 必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 2. 必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 3. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。 4. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。 5. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。				

●学校教育目標からの育成すべき資質・能力

① 自己肯定力	自分の長所を認識し、積極的に物事に取り組み、将来の夢や目標に向かって努力する力。	⑥ 自己管理力	授業や行事の中で目標を理解し、最後に学習したことや自分の言動を振り返る力。
② 行動力	自分が取るべき行動を理解し、自分の考えに基づき、周囲を巻き込んで行動する力。	⑦ 思考力	HRやグループワーク等の活動により、自ら課題を発見し、その解決に向けて、自分の考えを深め、広げて、論理的に考える力。
③ 創造力	未知の状況でも目的を達成するために、自らが直面した課題を解決する方法を創造する力。	⑧ 言語力	HRやグループワーク等の活動により、自分の考えを他者に伝え、建設的意見を生み出す力。
④ 表現力	HRやグループワーク等の活動により、自分の考えを伝わりやすいように工夫する力。	⑨ 分析力	情報活用能力を駆使し、事実を客観的に分析・検証し、結果を提案する力。
⑤ 郷土愛	総合的な探究の時間に地域を題材とし、課題の設定からまとめ・表現を行い、地域を理解する力。	⑩ 道徳心	授業や行事において、自分たちで考え、話し合う活動により、道徳的に判断する力・心。

●評価方法

評価の観点		観点の趣旨	評価方法
【知】	知識・技能	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけている。	○課題テスト及び定期考査 ○活動の観察 ○ペアワークやグループ活動における対話内容や反応 ○パフォーマンステスト
【思】	思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりする力を身につけている。	○課題テスト及び定期考査 ○活動の観察 ○ペアワークやグループ活動における対話内容や反応 ○パフォーマンステスト
【態】	主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度が養われている。	○課題テスト等に対する取り組む姿勢と結果 ○活動の観察 ○グループ学習の発表内容と意見を聞く態度

●学習計画

月	時数	単元	学習内容	評価の観点	資質・能力
4	9	Lesson1 Share Your World	・現在・過去・未来，助動詞について理解を深め，これらを適切に活用することができる。	・SNSのメリットやデメリットについての確に理解し，その内容を整理して伝えることができる。 ・整理した内容を活用して，最近の出来事などに関する投稿文を書いたり，伝え合うことができる。	①～⑩
5	9				
6	12	Lesson 2 I Was Drinking Chocolate!	・進行形，不定詞，動名詞について理解を深め，これらを適切に活用することができる。	・チョコレートの歴史についての確に理解し，その内容を整理して伝えることができる。 ・整理した内容を活用して，好きな食べ物や飲み物についてプレゼンテーションをし，質疑応答をすることができる。	①～⑩
7	9				
8	6	Lesson 3 Routes to the Top	・S+V+O（＝that-節），現在完了形，受け身について理解を深め，これらを適切に活用することができる。	・羽生結弦選手の活躍についての確に理解し，その内容を整理して伝えることができる。 ・整理した内容を活用して，羽生選手への応援メッセージを書くことができる。	①～⑩
9	9				
10	12	Lesson 4 Esports' Time Has Arrived	・比較（比較級・最上級・原級），S+V+O+to-不定詞について理解を深め，これらを適切に活用することができる。	・eスポーツの特徴についての確に理解し，その内容を整理して伝えることができる。 ・整理した内容を活用して，創作したゲームキャラクターに関する説明文を書いて，それを伝えることができる。	①～⑩
11	9				
12	9	Lesson 5 Mansai, Kyogen Performer	・分詞（現在分詞・過去分詞），It is … (for A) to～について理解を深め，これらを適切に活用することができる。	・野村萬斎さんの活躍についての確に理解し，その内容を整理して伝えることができる。 ・整理した内容を活用して，日本の文化や芸能について説明をし，質疑応答やコメントをすることができる。	①～⑩
1	6				
2	9	Lesson 6 In this Corner of the World	・現在完了進行形，関係代名詞（主格・目的格），S+V+O（＝疑問詞節）について理解を深め，これらを適切に活用することができる。	・『この世界の片隅に』の特徴についての確に理解し，その内容を整理して伝えることができる。 ・整理した内容を活用して，『この世界の片隅に』の一節を演じることができる。	①～⑩
3	6				

教科名	外国語	講座名	論理・表現Ⅰ	履修区分	必修
科目名	論理・表現Ⅰ			単位数	2
教科の目標	外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどの確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。				
科目の目標	「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」を中心とした統合的な言語活動を通して、コミュニケーションを図るために必要な発信能力を育成するとともに、論理の構成や展開を考察することで、情報や考えなどを論理的に工夫しながら伝える能力を養う。				

●学校教育目標からの育成すべき資質・能力

① 自己肯定力	自分の長所を認識し、積極的に物事に取り組み、将来の夢や目標に向かって努力する力。	⑥ 自己管理力	授業や行事の中で目標を理解し、最後に学習したことや自分の言動を振り返る力。
② 行動力	自分が取るべき行動を理解し、自分の考えに基づき、周囲を巻き込んで行動する力。	⑦ 思考力	HRやグループワーク等の活動により、自ら課題を発見し、その解決に向けて、自分の考えを深め、広げて、論理的に考える力。
③ 創造力	未知の状況でも目的を達成するために、自らが直面した課題を解決する方法を創造する力。	⑧ 言語力	HRやグループワーク等の活動により、自分の考えを他者に伝え、建設的意見を生み出す力。
④ 表現力	HRやグループワーク等の活動により、自分の考えを伝わりやすいように工夫する力。	⑨ 分析力	情報活用能力を駆使し、事実を客観的に分析・検証し、結果を提案する力。
⑤ 郷土愛	総合的な探究の時間に地域を題材とし、課題の設定からまとめ・表現を行い、地域を理解する力。	⑩ 道徳心	授業や行事において、自分たちで考え、話し合う活動により、道徳的に判断する力・心。

●評価方法

評価の観点		観点の趣旨	評価方法
【知】	知識・技能	○言語の働きなどを理解し、音声、語彙・表現、文法の知識を身に付けている。 ○4技能（聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと）において実際のコミュニケーションの場面で運用できる技能を身に付けている。	○課題テスト、定期考査
【思】	思考・判断・表現	○情報や考えなどの概要・詳細・意図を的確に理解したり適切に表現したりできる。 ○聞いたたり読んだりしたことなどを活用して、幅広い話題について話したり書いたりして、情報や考えなどの概要・詳細・意図を適切に伝え合っている。	○エッセイ・インタビューテスト・発表（スピーチ・プレゼンテーション）・ディベート等への取り組みと成果
【態】	主体的に学習に取り組む態度	○情報や考えなどを的確に理解している。 ○言語やその背景にある文化を尊重し、自律的・主体的にコミュニケーションを図ろうとしている。 ○他者を尊重しながら、自分の意見や考えを表現しようとしている。	○課題テスト等に対する取り組む姿勢と結果 ○活動の観察、課題提出 ○積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度

●学習計画

月	時数	単元	学習内容	評価の観点	資質・能力
4	6	Part 1 L1 ～ L3	【内容】はじめに 【文法】中学英文法の復習 【表現】話す[発表]	・疑問文や命令文、感嘆文を適切に作り、それに応答することができる。【知】 ・多様な表現を用い、理由を述べることができる。【思・態】 ・学校のルールや好きな科目について、理由や具体例などを加えて説明できる。【知・思・態】	①②④
5	6	Part 1 L4 ～ L6	【内容】友人・家族・余暇 【文法】文型と動詞 【表現】話す[やり取り]	・肯定・否定・疑問文・進行形・未来の表現を理解することができる。【知】 ・賛成・反対の意思を示したり、聞き直したりすることができる。【思・態】 ・文化祭に行く予定について話し合うことができる。【知・思・態】	②④⑧
6	8	Part 1 L7 ～ L9	【内容】街・先生・博物館 【文法】完了形と助動詞 【表現】話す[発表]／書く	・完了形の構造と概念を理解し、適切な時制を用いて伝えることができる。【知】 ・会話の相手を励ましたりすることができる。予定を伝え合うことができる。【思・態】 ・最近週末にしたことや予定していることについて、詳細を伝えることができる。【知・思・態】	①②⑥
7	6	Part 1 L10 ～ L12	【内容】有名人・留学 【文法】受動態と不定詞 【表現】話す[やりとり]	・受動態や不定詞の概念を理解し、それぞれの用法を区別して適切に文を作ることができる。【知】 ・経験について、様々な表現を用いて尋ねたり、伝えたりすることができる。【思・態】 ・自分の経験について、考えや気持ち、具体例を挙げて、伝えることができる。【知・思・態】	①④⑥
8	4	Part 1 L13 ～ L15	【内容】助言・趣味・休暇 【文法】不定詞・動名詞・分詞 【表現】話す[やりとり]	・不定詞・動名詞・分詞のそれぞれの意味と用法を理解し、適切に使い分けて表現することができる。【知】 ・許可を求めたり、義務や必要性を伝えたりすることができる。【思・態】 ・自分の主張に情報や考え、気持ちなどを適切な理由や根拠を加えて伝えることができる。【知・思・態】	②③⑧
9	6	Part 1 L16 ～ L18	【話題】動物園・チーム・隣人 【文法】比較と関係詞 【表現】話す[やり取り]	・比較と関係詞の構造や意味を理解し、適切に使い分けることができる。【知】 ・原因や影響について表現することができる。喜びや驚きの感情を表すことができる。【思・態】 ・本や出来事について、情報や考え、気持ちなどを伝えることができる。【知・思・態】	④⑤⑧
10	8	Part 1 L19 ～ L21	【内容】スピーチ・願望・ギフト 【文法】関係詞・仮定法・接続詞 【表現】話す[やり取り]	・関係詞・仮定法・接続詞の用法を学び、より詳細な情報を伝えることができる。【知】 ・原因や影響について表現することができる。喜びや驚きの感情を表すことができる。【思・態】 ・本や出来事について、情報や考え、気持ちなどを伝えることができる。【知・思・態】	②④⑧
11	6	Part 2 L1 ～ L3	【内容】学校生活・教科・余暇 【表現】話す[発表]	・既知の文法知識を用いて多様な文で伝えることができる。【知】 ・相手を誘ったり、申し出たりする表現を使うことができる。【思・態】 ・得意な活動や楽しみにしていることについて、詳細に説明することができる。【知・思・態】	②⑦⑧
12	6	Part 2 L4 ～ L6	【内容】助言・家事・インターネット 【表現】話す[発表]	・既知の文法知識を用いて多様な文で伝えることができる。【知】 ・情報を加えて詳しく論理的に説明することができる。【思・態】 ・写真などについて、具体例や詳細な情報を加えて伝えることができる。【知・思・態】	⑦⑧⑨
1	4	Part 2 L7 ～ L9	【内容】謝罪・計画・感想 【表現】話す[発表]	・既知の文法知識を用いて多様な文で伝えることができる。【知】 ・人や物事、経緯を詳細に説明したり、言い換えや要約することができる。【思・態】 ・論理の展開を工夫しながら詳細に伝えたり、根拠とともに伝えることができる。【知・思・態】	④⑥⑧
2	6	Part 2 L10 ～ L12	【内容】程度・願望・同情 【表現】話す[やり取り]	・既知の文法知識を用いて多様な文で伝えることができる。【知】 ・提案する表現や称賛する表現を学び、適切な提案と受け答えができる。【思・態】 ・自分の興味などについて、理由を加えて、詳しく説明することができる。【知・思・態】	③④⑨
3	4	Part 2 L13 ～ L15	【内容】感謝・賛否・意見 【表現】話す[発表]	・既知の文法知識を用いて多様な文で伝えることができる。【知】 ・適切な表現を用いて助言を求めたり、意志や要望を伝えることができる。【思・態】 ・日本の社会問題について自分の意見を伝えることができる。【知・思・態】	③⑦⑨

教科名	家庭科	講座名	家庭基礎	履修区分	必修
科目名	家庭基礎			単位数	2
教科の目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
科目の目標	(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 (2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。				

●学校教育目標からの育成すべき資質・能力

① 自己肯定力	自分の長所を認識し、積極的に物事に取り組み、将来の夢や目標に向かって努力する力。	⑥ 自己管理能力	授業や行事の中で目標を理解し、最後に学習したことや自分の言動を振り返る力。
② 行動力	自分が取るべき行動を理解し、自分の考えに基づき、周囲を巻き込んで行動する力。	⑦ 思考力	HRやグループワーク等の活動により、自ら課題を発見し、その解決に向けて、自分の考えを深め、広げて、論理的に考える力。
③ 創造力	未知の状況でも目的を達成するために、自らが直面した課題を解決する方法を創造する力。	⑧ 言語力	HRやグループワーク等の活動により、自分の考えを他者に伝え、建設的意見を生み出す力。
④ 表現力	HRやグループワーク等の活動により、自分の考えを伝わりやすいように工夫する力。	⑨ 分析力	情報活用能力を駆使し、事実を客観的に分析・検証し、結果を提案する力。
⑤ 郷土愛	総合的な探究の時間に地域を題材とし、課題の設定からまとめ・表現を行い、地域を理解する力。	⑩ 道徳心	授業や行事において、自分たちで考え、話し合う活動により、道徳的に判断する力・心。

●評価方法

評価の観点		観点の趣旨	評価方法
【知】	知識・技能	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	学習ノートの週末確認問題の取り組み 定期考査 被服実習の取り組みとワークシート 調理実習の取り組みとワークシート
【思】	思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	定期考査 学習ノートのレポート ホームプロジェクト 被服実習のレポート 調理実習のレポート
【態】	主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	学習ノートの取り組み・振り返りシート 定期考査のレポート ホームプロジェクト及び発表の取り組み

●学習計画

月	時数	単元	学習内容	評価の観点	資質・能力
4	6	オリエンテーション ホームプロジェクト 自分らしい生き方と家族	・ホームプロジェクトとは ・生涯発達する人生 ・青年期を生きる ・生活を支える労働 ・生活時間と男女共同参画社会 ・現代の家族	・ホームプロジェクトの意義と実施方法等について理解できる。【知】 ・4つの自立について理解し、自分らしさは一人ひとり異なることを理解できる。【知】 ・青年期の課題や家族・家庭についての学習を自分の問題として捉え、生涯を見通して考える。【思】【態】 ・生活時間を有効に使うための改善方法を考えている。【思】 ・仕事と家庭の両立について考える。【思】	①③④⑥ ⑦⑧
5	6	自分らしい生活と家族 高齢者とかかわる	・家族・家庭を取り巻く社会環境の変化や課題 ・家族に関する法律の理念と変化 ・家族にかかわる法律 ・高齢社会に生きる・高齢者を知る ・高齢者のサポートと介護の心 ・高齢社会を支えるしくみ	・現代の家族・家庭の課題を経済や制度などの社会環境の変化と関連付けて理解できる。【知】 ・婚姻、夫婦、親子等に関する法律の理念が理解できる。【知】 ・成年年齢の変更や理由、権利と責任などを考える。【思】【態】 ・高齢期の心身の特徴、介護予防や生活の工夫、認知症についても理解できる。【知】 ・高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の役割の重要性について考察する。【思】【態】	①②③④ ⑤⑥⑦⑧ ⑨⑩
6	8	【前期中間考査】 社会とかかわる 子どもとかかわる	・共に生きるために・社会保障制度 ・社会の一員としての私たちの役割 ・子どもの誕生・からだの発達 ・運動機能の発達と知的発達 ・かかわりのなかの発達 ・子どもの生活習慣と健康	・生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解できる。【知】 ・家庭や地域及び社会の一員として共に支え合って生活することの重要性について考察する。【思】【態】 ・身体の発育や運動機能、言語、認知、情緒、社会性などの発達の概要とその関連性を理解できる。【知】	①②③④ ⑤⑥⑦⑧ ⑨⑩
7	6	子どもとかかわる 衣生活をつくる	・子どもの食生活・衣生活・子どもの遊び ・親になることを考えよう ・すこやかに育つ環境と支援 ・子どもを守る法律・制度 ・人と衣服のかかわり・健康で安全な衣服 ・衣服素材の性能と改善	・遊びが子どもの生活において重要であることを理解するとともに、基本的な生活習慣の形成や健康管理と安全への配慮などについて理解できる。【知】 ・子どもを生み育てることの意義、親や家族及び地域や社会の役割の重要性について考察する。【思】【態】 ・現在の子育ての環境や地域社会や国の支援策や課題などについて、情報を収集し、まとめることができる。【思】【態】 ・保健衛生上、生活活動上、社会生活上の機能を生かした適切な着装があることを理解できる。【知】	①②③④ ⑤⑥⑦⑧ ⑨⑩
8	4	衣生活をつくる	・衣服素材の種類と特徴 ・衣生活の計画と購入 ・衣服の管理 ・家庭での洗濯・保管 ・持続可能な衣生活をつくる	・衣服の購入の際、自分のサイズを把握し、表示から必要な情報を読み取ることができる。【思】【態】 ・汚れが落ちる仕組みや、湿式洗濯と乾式洗濯の特徴を理解した上で、組成表示や家庭用品品質表示、取扱表示などに基づいた、適切な洗濯ができる。【知】【思】【態】 ・ファストファッションの問題点を把握し、自分の行動を見直すことができる。【思】【態】	①②③④ ⑤⑥⑦⑧ ⑨
9	6	【前期期末考査】 住生活をつくる	・人と住まいのかかわり ・平面図からみた住空間 ・ライフステージと住まいの計画 ・健康に配慮した住まい ・安全な住まい・持続可能な住まい ・ひとり暮らしのレイアウトとコーディネート	・住まいの機能や地域性豊かな住まいの文化を理解できる。【知】 ・平面図が読み取れるようになる。【知】 ・地震、風水害、積雪、土砂崩れなどの自然災害に対する防災対策を講じた住宅、防火、防犯、家庭内での事故などに対応した安全な住宅・住生活について考える。【知】【態】 ・学習の成果を活かし、自分がひとり暮らしをする時の間取りをコーディネートする。【思】【態】	①②③④ ⑥⑦⑧⑨
10	8	衣生活をつくる	・被服製作（エプロン） ・ボタン付け ・ミシンの操作・ミシン練習シート ・三つ折り・三つ折りミシン ・ポケット付け	・人体と被服の関わり、人体を覆い動作に適応した被服の形状やゆとりなどについて理解し、平面構成である和服と立体構成である洋服の構成上の特徴、既製衣料品のサイズ表示について理解できる。【知】 ・基本的な縫製技術を身に付ける。【知】 ・使いやすさを考えてポケットの位置を決めることができる。【思】 ・被服実習を振り返り、レポートを作成する。【態】	①②③④ ⑤⑥⑦⑧ ⑨
11	6	食生活をつくる	・私たちの食生活と健康 ・五大栄養素 ・炭水化物 ・脂質 ・たんばく質	・生活習慣病、摂食障害、月経異常などと食生活がかかわっていることを理解できる。【知】 ・自分の現在の食生活を振り返り、課題を見つけ、改善にむけて積極的に取り組もうとしている。【思】【態】 ・炭水化物・資質・たんばく質の働きやその栄養素を多く含む食品の特徴についての基礎的知識を身に付ける。【知】	①②⑥⑨
12	6	食生活をつくる ホームプロジェクト	・ミネラル ・ビタミン ・ホームプロジェクトの活動	・ミネラル・ビタミンの働きやその栄養素を多く含む食品の特徴についての基礎的知識を身に付ける。【知】 ・食品と栄養、調理との関係において、科学的な視点をもって、知識を深めようとしている。【思】【態】 ・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践する。【思】【態】	①②③④ ⑤⑥⑦⑧ ⑨⑩
1	4	食生活をつくる ホームプロジェクト	・食品の選択と表示 ・食品の衛生 ・食の未来と環境への取り組み ・食事摂取基準 ・食品群別摂取量のめやす ・ホームプロジェクトの発表会	・食中毒の種類や予防法等について学び、衛生的な調理や食事管理ができるようになる。【知】 ・食料自給率、輸入食品、遺伝子組換えやゲノム編集などを踏まえて、自分や家族の食について考えたり、他者と対話することができる。【思】【態】 ・計画、実行、反省・評価の流れに基づいて行い、実施過程を記録するとともに、次の課題へ繋げるように発表会を通して交流する。【態】	①②③④ ⑤⑥⑦⑧ ⑨⑩
2	6	食生活をつくる 【後期期末考査】 経済的に自立する	・調理の基本 ・調理実習 ・献立作成 ・長期的な経済計画を立てる	・調理に関する基本的な「切る」「炒める」「ゆでる」「焼く」などの調理技術を身に付け、実際に調理ができるようになる。【知】 ・食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理実習ができる。【知】【思】【態】 ・調理実習を振り返り、レポートを作成する。【態】 ・教育資金、住宅取得、老後の備えの他にも、事故や病気、失業などリスクへの対応が必要であることを理解するとともに、預貯金、民間保険、株式、債券、投資信託等の基本的な金融商品の特徴、資産形成のことについても理解できる。【知】	①②③④ ⑤⑥⑦⑧ ⑨⑩
3	4	消費行動を考える 生活設計	・契約と主體的な消費行動 ・多様化する販売方法と問題商法 ・多様化する支払い方法 ・持続可能な社会の構築 ・これからの人生をデザインする	・問題商法の被害を未然に防いだり、早期に解決するための方法について思考・判断ができる。【思】【態】 ・環境配慮型製品の開発やグリーン購入の推進など、地域や企業、行政、国際的な取組など社会全体が一体となった取組を理解できる。【知】【態】 ・生活設計について、就きたい職業について調査をしたりするなど具体的に短期・長期の計画を立てることができる。【思】【態】	①②③④ ⑤⑥⑦⑧ ⑨⑩

教科名	情報	講座名	情報Ⅰ	履修区分	必修
科目名	情報Ⅰ			単位数	2
教科の目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う。				
科目の目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う。				

●学校教育目標からの育成すべき資質・能力

① 自己肯定力	自分の長所を認識し、積極的に物事に取り組み、将来の夢や目標に向かって努力する力。	⑥ 自己管理力	授業や行事の中で目標を理解し、最後に学習したことや自分の言動を振り返る力。
② 行動力	自分取るべき行動を理解し、自分の考えに基づき、周囲を巻き込んで行動する力。	⑦ 思考力	HRやグループワーク等の活動により、自ら課題を発見し、その解決に向けて、自分の考えを深め、広げて、論理的に考える力。
③ 創造力	未知の状況でも目的を達成するために、自らが直面した課題を解決する方法を創造する力。	⑧ 言語力	HRやグループワーク等の活動により、自分の考えを他者に伝え、建設的意見を生み出す力。
④ 表現力	HRやグループワーク等の活動により、自分の考えを伝わりやすいように工夫する力。	⑨ 分析力	情報活用能力を駆使し、事実を客観的に分析・検証し、結果を提案する力。
⑤ 郷土愛	総合的な探究の時間に地域を題材とし、課題の設定からまとめ・表現を行い、地域を理解する力。	⑩ 道徳心	授業や行事において、自分たちで考え、話し合う活動により、道徳的に判断する力・心。

●評価方法

評価の観点		観点の趣旨	評価方法
【知】	知識・技能	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身につけているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。	○小テスト ○単元テスト ○考査 ○ワークシート
【思】	思考・判断・表現	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	○ワークシート ○発表資料
【態】	主体的に学習に取り組む態度	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。	○単元に対する振り返り ○活動の観察 ○ワークシート

●学習計画

月	時数	単元	学習内容	評価の観点	資質・能力
4	6	情報社会の問題 解決	第1章 情報とメディア	・情報やメディアの特性、情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任及び情報モラル、情報技術が人や社会に果たす役割及ぼす影響について理解している。【知】 ・著作権などの知的財産権の保護の必要性とともに、そのために必要な法規及び個人の責任について理解させる。【思】 ・情報社会の問題点をふまえ、情報セキュリティの重要性を理解させるとともに、ユーザ認証やアクセス制御などの技術、セキュリティ対策の方法を理解させ、情報社会において個人の果たす役割や責任について考えさせる。【態】	③④⑥⑦ ⑧⑨
5	6		第2章 情報社会における法とセキュリティ		
6	8		第3章 情報技術が社会に及ぼす影響		
7	6	コミュニケーションと情報デザイン	第1章 情報のデジタル表現	・メディアの特性やコミュニケーションの手段、デジタル表現の仕組み、効果的な情報デザインの考え方や方法について理解している。【技】 ・古代からの技術的な進歩やコンピュータを使った通信の歴史を概観し、コミュニケーション手段の発展について理解させる。【思】 ・情報デザインによる問題解決を通して、望ましい情報社会にするために必要な行動を考えようとしている。また、自ら問題解決の過程を評価し改善しようしている【態】	③④⑥⑦ ⑧⑨
8	4		第2章 コミュニケーション手段の発展と特徴		
9	6		第3章 情報デザイン		
10	8	コンピュータとプログラミング	第1章 コンピュータのしくみ 第2章 プログラミング 第3章 モデル化とシミュレーション	・コンピュータの仕組みやアルゴリズム・フローチャートについて理解している。また、社会や自然などにおける事象をモデル化する技能を身に付けている。【知】 ・目的に応じたモデル化やプログラミングを用いたシミュレーションを適切に行い、その結果を踏まえて問題の適切な解決方法を考えている。【思】 ・モデル化とシミュレーションによる問題解決を通して、望ましい情報社会にするために必要な行動を考えようとしている。また、自ら問題解決の過程を評価し改善しようしている【態】	③④⑥⑦ ⑧⑨
11	6				
12	6				
1	4	情報通信ネットワークとデータの活用	第1章 ネットワークのしくみ 第2章 データベース 第3章 データの分析	・情報通信ネットワークやデータベースの仕組み、データの収集、整理、分析方法について理解するとともに、技能を身に付けている。【知】 ・情報通信ネットワークのセキュリティや暗号化、データベースの必要生について考えているとともに、データの収集、整理、分析の方法を適切に選択し、実行、評価し改善することができる。【思】 ・データ分析による問題解決を通して、望ましい情報社会にするために必要な行動を考えようとしている。また、自ら問題解決の過程を評価し改善しようしている【態】	③④⑥⑦ ⑧⑨
2	6				
3	4				

教科名	芸術	講座名	音楽Ⅰ	履修区分	1A
科目名	音楽			単位数	2
教科の目標	芸術の幅広い活動を通して、芸術に関する各科目の特性について理解し、意図に基づいて表現するための技能を身に付け、創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わうことができる資質を育成し、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。				
科目の目標	音楽の基本的な知識や技能を習得し、音楽を形作っている要素や背景にあるものを感じながら創造的に表現する能力を身につける。				

●学校教育目標からの育成すべき資質・能力

① 自己肯定力	自分の長所を認識し、積極的に物事に取り組み、将来の夢や目標に向かって努力する力。	⑥ 自己管理力	授業や行事の中で目標を理解し、最後に学習したことや自分の言動を振り返る力。
② 行動力	自分が取るべき行動を理解し、自分の考えに基づき、周囲を巻き込んで行動する力。	⑦ 思考力	HRやグループワーク等の活動により、自ら課題を発見し、その解決に向けて、自分の考えを深め、広げて、論理的に考える力。
③ 創造力	未知の状況でも目的を達成するために、自らが直面した課題を解決する方法を創造する力。	⑧ 言語力	HRやグループワーク等の活動により、自分の考えを他者に伝え、建設的意見を生み出す力。
④ 表現力	HRやグループワーク等の活動により、自分の考えを伝わりやすいように工夫する力。	⑨ 分析力	情報活用能力を駆使し、事実を客観的に分析・検証し、結果を提案する力。
⑤ 郷土愛	総合的な探究の時間に地域を題材とし、課題の設定からまとめ・表現を行い、地域を理解する力。	⑩ 道徳心	授業や行事において、自分たちで考え、話し合う活動により、道徳的に判断する力・心。

●評価方法

評価の観点		観点の趣旨	評価方法
【知】	知識・技能	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。 ・創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表している。	実技（歌唱、器楽演奏・アンサンブル等） 鑑賞 ペーパーテスト
【思】	思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	実技（歌唱、器楽演奏・アンサンブル等） 鑑賞
【態】	主体的に学習に取り組む態度	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	授業態度、課題提出状況、忘れ物状況

●学習計画

月	時数	単元	学習内容	評価の観点	資質・能力
4	6	オリエンテーション 歌唱 楽譜の理解と演奏	音楽Ⅰについて、校歌、読譜練習	・様々な表現形態による歌唱活動に関心をもち、それらの演奏効果を生かして歌うことに主体的に取り組もうとしている。【態】 ・声を合わせる活動に関心をもち、それらの演奏効果を生かして歌うことに主体的に取り組もうとしている。【態】 ・リズム、旋律、テクスチャ、強弱を知覚することができる。【知】 ・音楽を構成する要素が生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、歌詞の内容をかかわらせて、様々な表現形態による歌唱の特徴を生かした音楽表現を工夫して、どのように歌うか表現意図をもっている。【思】 ・曲想を歌詞の内容とかかわらせて、イメージをもって音楽表現をするために、必要な歌唱の技能を身に付け、創造的に表している。【知】 ・音楽の多様性を理解し、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。【思】	①③⑥⑦⑨
5	6	歌唱 器楽 楽譜の理解と演奏 鑑賞	校歌、斉唱、合唱 読譜練習、鑑賞		
6	8				
7	6				
8	4		校歌、斉唱、合唱 読譜練習、鑑賞、器楽基礎練習		
9	6	歌唱 器楽 創作 鑑賞	校歌、斉唱、合唱 器楽、創作、鑑賞	・楽器の基礎的な奏法を身に付けて、それらを生かして演奏することに関心をもち、主体的に取り組もうとしている。【知】【態】 ・グループで合奏することに関心をもち、声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、主体的に取り組もうとしている。【態】 ・楽器の音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、様々な表現形態の特徴を生かした音楽表現を工夫し、どのように演奏するか表現意図をもっている。【思】 ・楽器の奏法やその特徴を生かした音楽表現をするために、必要な楽器の技能を身に付け、創造的に表している。【知】 ・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、舞台芸術の特徴を理解し、それらの価値を考えて音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。【知】【思】	①②③④⑥ ⑦⑧⑨⑩
10	8				
11	6				
12	6				
1	4				
2	6				
3	4	1年間のまとめ	校歌、斉唱、合唱 器楽、創作、鑑賞、読譜練習		

教科名	芸術	講座名	美術Ⅰ	履修区分	必修
科目名	美術Ⅰ			単位数	2
教科の目標	芸術の幅広い活動を通して、芸術に関する各科目の特性について理解し、意図に基づいて表現するための技能を身に付け、創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わうことができる資質を育成し、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。				
科目の目標	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、意図に応じて表現方法を創意工夫し、主題を生成し発想や構想を練りながら、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深め、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。				

●学校教育目標からの育成すべき資質・能力

① 自己肯定力	自分の長所を認識し、積極的に物事に取り組み、将来の夢や目標に向かって努力する力。	⑥ 自己管理力	授業や行事の中で目標を理解し、最後に学習したことや自分の言動を振り返る力。
② 行動力	自分取るべき行動を理解し、自分の考えに基づき、周囲を巻き込んで行動する力。	⑦ 思考力	HRやグループワーク等の活動により、自ら課題を発見し、その解決に向けて、自分の考えを深め、広げて、論理的に考える力。
③ 創造力	未知の状況でも目的を達成するために、自らが直面した課題を解決する方法を創造する力。	⑧ 言語力	HRやグループワーク等の活動により、自分の考えを他者に伝え、建設的意見を生み出す力。
④ 表現力	HRやグループワーク等の活動により、自分の考えを伝わりやすいように工夫する力。	⑨ 分析力	情報活用能力を駆使し、事実を客観的に分析・検証し、結果を提案する力。
⑤ 郷土愛	総合的な探究の時間に地域を題材とし、課題の設定からまとめ・表現を行い、地域を理解する力。	⑩ 道徳心	授業や行事において、自分たちで考え、話し合う活動により、道徳的に判断する力・心。

●評価方法

評価の観点		観点の趣旨	評価方法
【知】	知識・技能	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。	提出作品
【思】	思考・判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	構想シート アイディアスケッチ
【態】	主体的に学習に取り組む態度	美術や美術文化と豊かに関り主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。	創作活動等に対する取り組む姿勢 課題の提出状況 鑑賞シート

●学習計画

月	時数	単元	学習内容	評価の観点	資質・能力
4	6	【絵画】 鉛筆デッサン	鉛筆デッサンの基本	形や光、陰影、質感、造形的な特徴を基に、用具の特性を生かしながら、構成などについて考え、表現方法を創意工夫し制作しようとしている。【知】【思】【態】	③ ④⑦
5	6				
6	8	【絵画】 ペン画 コラージュ	色画用紙を選択し、割り箸ペ ンで描いたクロッキー作品で コラージュを行う。	・素材や配置の変化、色が与える印象の違いから全体のイメージを捉え、ペン画を基にテーマ（主題）を生成し、構成などについて考え、表現方法を創意工夫し制作しようとしている。【知】【思】【態】	③ ④⑦
7	6				
8	4	【デザイン】 平面構成	色の仕組み・平面構成 絵の具の使い方・混色方法に ついて理解し、条件に従って 幾何形体による平面構成を行 う。	・色の仕組みや混色について理解し、ア クリル絵の具の特性を生かしている。 【知】 ・与えられた条件から、円と線の構成を 考え、見やすい構図を組み立て制作しよ うとしている。【知】【思】【態】	③ ④⑦⑨
9	6				
10	8	【絵画】 エコバッグ	布用絵の具を混色し、エコ バッグ（帆布）にステンシル （孔版）を施す。	・布用絵の具の使い方を理解し、表現方 法を創意工夫しながら、デザインに応じ て型の構成を練っている。【知】【思】 ・デザインを生かし、バッグの配色やグ ラデーション等の構想を練り制作しよ うとしている。【思】【態】	③ ④⑦⑨
11	6				
12	6	【絵画】 自画像 （油絵）	油絵の具の特性を生かしなが ら、自分のイメージした自画 像の制作をする。	・油絵の具の特性を理解するとともに、 意図に応じて表現方法を創意工夫し、表 している。【知】 ・自己を見つめ感じ取ったことや考えた こと等から、量感、光と陰影、表現の構 想を練り、制作しようとしている。 【思】【態】	①③ ④⑦⑨
1	4				
2	6	【彫刻】 アイヌ文様 レリーフ	アイヌ文様の基本を学び、オ リジナルのアイヌ文様でレ リーフの制作を行う。	・アイヌ文様の基本的な特徴を基に、全 体のイメージや作風を捉えテーマ（主 題）を生成し、創造的な表現の構想を 練っている。【知】【思】 ・彫刻刀やカッターを用い、文様のデザ インが引き立つ彫り方を創意工夫し制作 しようとしている。【知】【態】	③④⑤⑦
3	4				

教科名	芸術	講座名	書道Ⅰ	履修区分	1A
科目名	書道Ⅰ			単位数	2
教科の目標	芸術の幅広い活動を通して、芸術に関する各科目の特性について理解し、意図に基づいて表現するための技能を身に付け、創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わうことができる資質を育成し、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。				
科目の目標	書道の幅広い活動を通して、書に対するものの見方・考え方を働かせ、効果的に表現するための基礎的な知識を身に付け、意図に基づき、効果的な技能を身に付け、意図に基づいて構想し表現を工夫する資質を育成し、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。				

●学校教育目標からの育成すべき資質・能力

① 自己肯定力	自分の長所を認識し、積極的に物事に取り組み、将来の夢や目標に向かって努力する力。	⑥ 自己管理力	授業や行事の中で目標を理解し、最後に学習したことや自分の言動を振り返る力。
② 行動力	自分が取るべき行動を理解し、自分の考えに基づき、周囲を巻き込んで行動する力。	⑦ 思考力	HRやグループワーク等の活動により、自ら課題を発見し、その解決に向けて、自分の考えを深め、広げて、論理的に考える力。
③ 創造力	未知の状況でも目的を達成するために、自らが直面した課題を解決する方法を創造する力。	⑧ 言語力	HRやグループワーク等の活動により、自分の考えを他者に伝え、建設的意見を生み出す力。
④ 表現力	HRやグループワーク等の活動により、自分の考えを伝わりやすいように工夫する力。	⑨ 分析力	情報活用能力を駆使し、事実を客観的に分析・検証し、結果を提案する力。
⑤ 郷土愛	総合的な探究の時間に地域を題材とし、課題の設定からまとめ・表現を行い、地域を理解する力。	⑩ 道徳心	授業や行事において、自分たちで考え、話し合う活動により、道徳的に判断する力・心。

●評価方法

評価の観点		観点の趣旨	評価方法
【知】	知識・技能	・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の幅広い活動を通して理解を深めている。 ・書の伝統に基づき、効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付け、表している。	○ワークシートの記述状況 ○活動の様子（意見交流における発言等） ○作品
【思】	思考・判断・表現	・書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えている。	○ワークシートの記述状況 ○活動の様子（意見交流における発言等） ○作品
【態】	主体的に学習に取り組む態度	・書の伝統と文化と豊かに関わり、主体的に表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。	○ワークシートの記述状況 ○活動の様子（作品制作、鑑賞の取り組み状況）

●学習計画

月	時数	単元	学習内容	評価の観点	資質・能力
4	6	書の美を求めて 漢字の書の学習	用具・用材、姿勢・執筆 古典の学び方 書体の変遷 拓本と碑について	・正しい姿勢・執筆や用具の扱い方を身に付け、用具・用材を工夫することで作品にさまざまな表現効果をもたらすことを理解している。【知】【思】 ・主体的に表現、鑑賞に取り組んでいる。【態】	②⑥
5	6	楷書の学習	さまざまな楷书 唐の四大家 九成宮醴泉銘/孔子廟堂碑 雁塔聖教序/顔氏家廟碑 北魏の書 牛橛造像記/鄭義下碑	・それぞれの楷书の特徴や古典の書風の特徴を理解し、表現しようとしている。【知】【態】 ・欧陽詢、虞世南の楷书の用筆・運筆、字形の特徴を理解し、表現することができる。【知】【思】 ・褚遂良、顔真卿の楷书の用筆・運筆、字形の特徴を理解し、表現することができる。【知】【思】 ・方勢、円勢の趣を理解し、表現することができる。【知】【思】 ・主体的に表現、鑑賞に取り組んでいる。【態】	①③④⑥ ⑦⑧⑨
6	8				
7	6	行書の学習	さまざまな行書 行書の特徴 王羲之と顔真卿の行書 蘭亭序/祭姪稿 日本の行書 風信帖/三筆、三跡の書	・それぞれの行書の特徴や古典の書風の特徴を理解し、表現しようとしている。【知】【態】 ・蘭亭序、祭姪稿の用筆・運筆、字形の特徴を理解し、表現することができる。【知】【思】 ・風信帖、三筆、三跡の用筆・運筆、字形の特徴を理解し、表現することができる。【知】【思】 ・主体的に表現、鑑賞に取り組んでいる。【態】	①③④⑥ ⑦⑧⑨
8	4				
9	6	篆書の学習	篆書（小篆）の特徴 泰山刻石	・篆書の特徴を理解し、表現しようとしている。【知】【態】 ・泰山刻石の用筆・運筆、字形の特徴を理解し、表現することができる。【知】【思】 ・篆刻の用具・用材手順について理解しようとしている。【態】 ・印稿をもとに手順に従って姓名印を完成させることができる。【知】【思】 ・主体的に表現、鑑賞に取り組んでいる。【態】	①③④⑥ ⑦⑧⑨
10	8	篆刻の学習	篆刻の用具・用材 姓名印を刻る		
11	6	隸書の学習	隸書の特徴 曹全碑/居延漢簡	・隸書の特徴を理解し、表現しようとしている。【知】【態】 ・曹全碑、居延漢簡の用筆・運筆、字形の特徴を理解し、表現することができる。【知】【思】 ・古典の鑑賞や臨書をとおして身につけた表現方法をもとに表現を工夫して創作することができる。【知】【思】【態】 ・仮名の成立、発達について理解し、仮名の書の美を味わおうとしている。【態】 ・仮名の字形の変化や運筆について理解を深め、連綿や構成を工夫して制作することができる。【知】【思】 ・主体的に表現、鑑賞に取り組んでいる。【態】	①②③④ ⑥⑦⑧⑨
12	6	草書の学習	草書の特徴 書譜		
		漢字の書の制作	作品の様式や用具・用材を工夫して表現しよう		
		仮名の書の学習	仮名の成立と発達 蓬萊切/高野切第三種 /三色紙 仮名の書の制作、全体構成の工夫		
1	4				
2	6	漢字仮名交じりの書の学習	言葉を表現する 感動や思いを表現しよう 作品の表現意図を考える 名筆に学ぶ表現の工夫 用具・用材、全体構成の工夫 漢字仮名交じりの書の表現と鑑賞	・素材となる言葉を理解し、思いを深め、表現を工夫しようとしている。【態】 ・制作の意図に応じて、適切に用具・用材、運筆・用筆を工夫している。【思】【表】 ・全体構成や文字の大きさを工夫して、これまでに学習してきた書風を生かし、表現意図に合うように効果的に表現している。【知】【思】【態】 ・筆者の制作意図を想像しながら、漢字仮名交じりの書を鑑賞することができる。【知】【思】【態】	①②③④ ⑤⑥⑦⑧ ⑨⑩
3	4				